備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成１９年度	根拠法令・例規等	農地・水・環境保全向上対策実施要綱
総合計画 大項目	04 もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問合先 担当課（室）	農林水産課
中項目 基本施策	01 豊かな食を支えるまちづくり	職・氏名	係長　高井　利広
小項目 施策	01 農業	電話	0869-64-1836
事務事業名	11 農地・水・環境保全向上対策事業	このシート作成に要した時間	1.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	農振農用地地域内で、事業の目的を理解し、共同活動に取り組む。
目的（何のために）	構成員による共同活動を通じ、取組地域に存在する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	できるだけ多くの地域に参加してもらって、住民独自で地域に存在する農地・農業用水等の資源や農村環境の良好な保全と質的向上を図る。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
農地・水・環境保全向上対策事業	農地・水・環境の良好な保全と質の向上を図るため、農業者だけでなく、地域住民、自治会、関係団体などが幅広く参加し、施設の管理、農村の自然や景観など共同活動を行う。	○

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円	1,267	1,249	2,494
	必要人員 人件費		0.10人 593	0.06人 350	0.12人 1,008
	事業費計		1,860	1,599	3,502
決算額 財源	国県支出金	千円	657	639	1,257
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		1,203	960	2,245
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
結果指標	説明	交付対象面積		
結果指標量	アール	5,617	5,617	5,617
対前年比	%	―	100.0%	100.0%
活動コスト	円	1,860,000	1,599,000	3,502,000
単位当たりコスト		331	285	623

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
事業への交付対象面積	目標値（A）	5,617	5,617	5,617	5,617
	実績値（B）	5,617	5,617	5,617	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	100.00%	100.00%	5,617

成果指標設定の考え方・式や説明

この事業は、農振農用地に限られた５年間の継続事業であり、地区からの要望により取り組まれるため、目標値の設定はできない。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高いや高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ■ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高いや高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：平成２４年度からは、継続期間の５年が終了し、あらたに交付金額が７５%に減額されて継続される。事業名も農地・水保全管理事業となり、長寿命化を目的とした向上活動支援交付金制度も追加された。

総合評価

平成１９年度から５年間取り組まれた農地・水・環境保全向上対策事業も無事終了し、新庄地区においては交付金を有効に活用し、集落活動も活発に行われた。

総合評価（A 高いや高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標：平成２３年度から向上活動対策が合わせて取り組まれたため、交付金の適正な有効利用に取り組みながら、新庄集落の整備と農業者以外の方々を含めた活動が取り組まれる。